859
78

古今和歌集序正文

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集序正文』　請求記号 859-78
ガラス使用

●後人誤入ノ字
□補なる字

●ひとあ下の□を□に改む

(題照)
859-78

宮内省圖書寮

やまとうたは人の心をたねとしてよろづの
ことのはとぞなれりける世の中にある人
ことわざしげきものなれば心におもふことを
見るものきくものにつけていひいだせる
なり花になく鶯水にすむかはづの
こゑをきけばいきとしいけるものの

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集序正文』　請求記号 859-78
ガラス使用

成はまげてけるちうをいれてあめつちをうごかしめふるあるいはをもひきおりとりをとこ女にもやまとうたはなほこのかぎりのつねにあるものなりひとりけちうをもてあそぶ時をりにつけてきたれる。

ちうをのはしめはまことにひさかたのあまてらすかみのあまくだりたまひしよりはじまりぬ。ありふるかぜ歌よみ人しらずにいはく。つちをはしてすきのをれみてとりをおこしてあらかねのつちをたがやすかぜをまつ。あまやぎる神代ふるさまにまことのみちはよりてなりにけり。

我見云 景樹ハすきをなをすとよるべき所を刪りたるなり。ひがごとなり

人の代となりてすべのをれみてとりをとるべし。

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集序正文』　請求記号 859-78
ガラス使用

ちはやふる
ひとつ二五字の下
のみうとをそへてそれかの歌
雅澄よりこの花をこそ
見つるかなとさくやこの花と
竹下字八五字ヲ刪ル

景樹ハ云ニあり〻ノ二言を加フ

ちはやふる
ひとつ二五字の下
のみうとをそへてそれかの歌
雅澄よりこの花をこそ
見つるかなとさくやこの花と
竹下字八五字ヲ刪ル

ちはやふる
ひとつ二五字の下
のみうとをそへてそれかの歌
雅澄よりこの花をこそ
見つるかなとさくやこの花と
竹下字八五字ヲ刪ル

ちはやふる
ひとつ二五字の下
のみうとをそへてそれかの歌
雅澄よりこの花をこそ
見つるかなとさくやこの花と
竹下字八五字ヲ刪ル

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集序正文』　請求記号 859-78
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集序正文』　請求記号 859-78

ガラス使用

歳見ニ仮ノ下タクレヲ景樹ト

秋ハ改ム

秋ハ紅葉ハ散ルトアレドモ

秋ハ紅葉ハ散ルトアレドモ
ツヒニ枯ルヲ
ヒトツ
ヒトツ
ヒトツ

[illegible]

上刪ル所多シ

景樹ハ[illegible]ほきみのうの一句を刪リ[illegible]を改ム

ときよの下ニ補ベシ[illegible]

柿本人まろ

人まろ赤人

人まろが[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

彼ときこそ世ハとつきよりもあるに[illegible]

普通ノ本ニハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いすゝのうらのそのいたつたのもりのかへるかへるあをつゝ世世之字
普通ノ本ニテハ八衍文
あり

ひとをふるなりけりあらはれは
えてのちうらえぬこゝろだにふなむある
人ハいかゝとゝふよつさくるる人
をはたやもきやうなれはそのかゝ
[世字を旨傳の刪改なり]
[ちつかきそ]その花きさくる人ハ
備正通照ハ分ハ色ハ花ハ

たゝなゝハ高ようけるをたゝなれて
つゝに四ゝこゝろかゝふこゝ
業平ハそのうらいまてはたゝ
たはめる花ハ色なくて白ひのうれしさと
ふん屋ハ康秀ハ卿たゝみよてそのあ
[ふん屋よりし遠鏡てこれこあたゝれ為て]
ふおとゝいとゝあきゝのようきゝぬきゝ

ごとく宇治山は僧きせもの須うもかな

してもあはれたるに秋の日

をうるに暁の雲ふかくあるけしきの

小野らあるにはなるやうにつまるに

よきあはれあるやうにとうるあるふ俤大

とものはるまるそのうるやいと新なる

新撰千ニなきそのあろーき

そのこころ

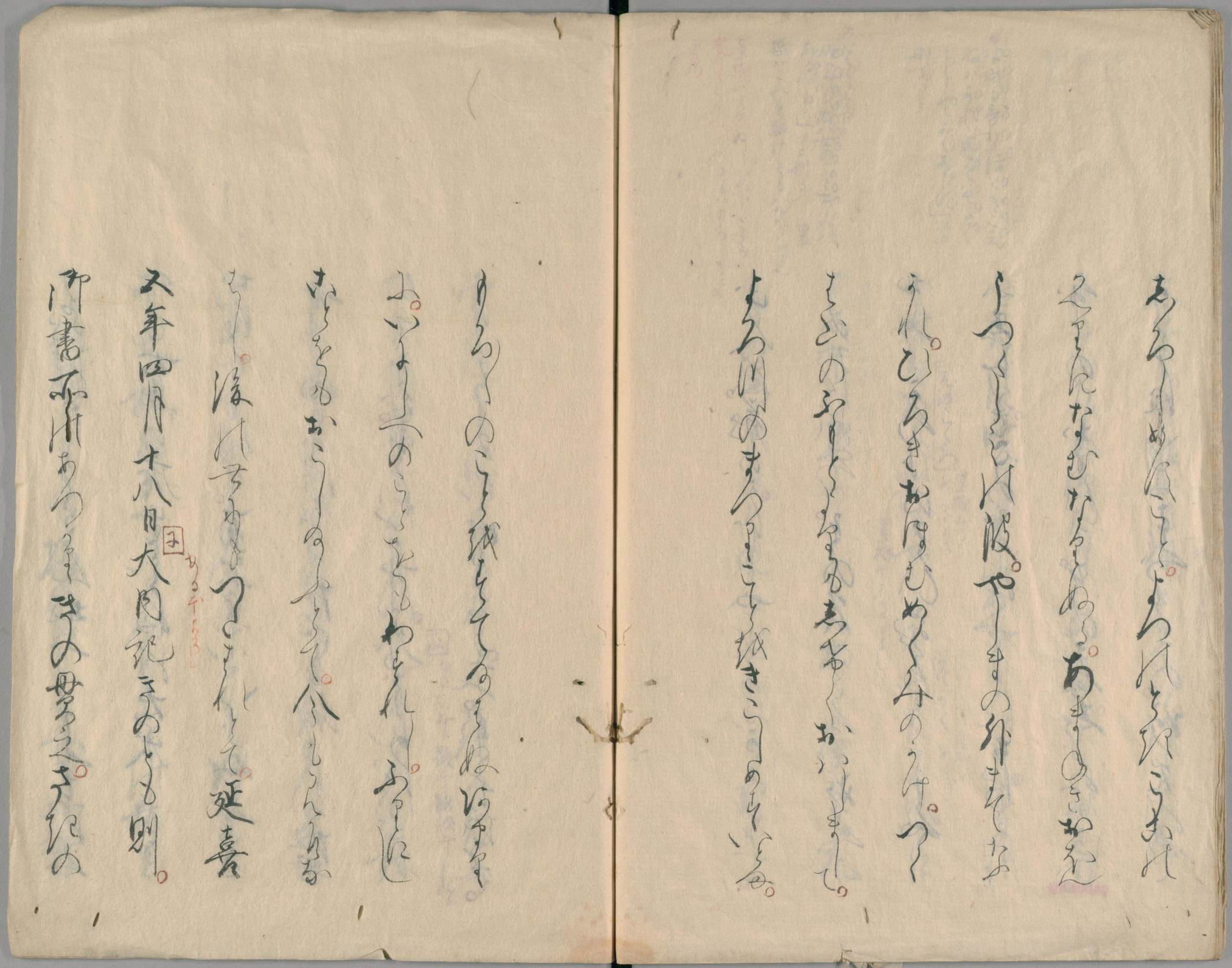
景樹千ニ
あるぶうろ

景樹千ふきぶうよ

正ぶのく

同千ニ
あるぶうー

よめる歌ぬぬぬ



国立国会図書館　タイトル『古今和歌集序正文』　請求記号 859-78

ガラス使用

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

景樹ハあづま坂の下やまの二言を刪るとゆいうでふ題不敏成平こうれるとう

雪ふりてつもれるかぎりあるものを　又[illegible]

つけて[illegible]をおりひとをもいまも秋

[illegible]

山ふかみそこもいのりけるもの

春夏秋[illegible]

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集序正文』　請求記号 859-78

ガラス使用

古今和歌集序

ひさかたの天の原ふりさけみれば春日なる
三笠の山にいでしつきかも

阿倍仲麿

あしびきの山鳥の尾のしだり尾の
長々し夜をひとりかもねむ

柿本人麿

田子の浦にうちいでてみれば白たへの
富士の高ねに雪は降つつ

山部赤人

奥山に紅葉踏みわけなく鹿の
こえきくときぞ秋はかなしき

猿丸大夫

花の色は移りにけりいたづらに
わが身よにふるながめせしまに

小野小町

これさだのみこの歌たてまつりしとき
の序をかのかぶらの書きたまへりしを
ばかりとて
ちはやぶる神代も聞かず竜田川
からくれなゐに水くくるとは

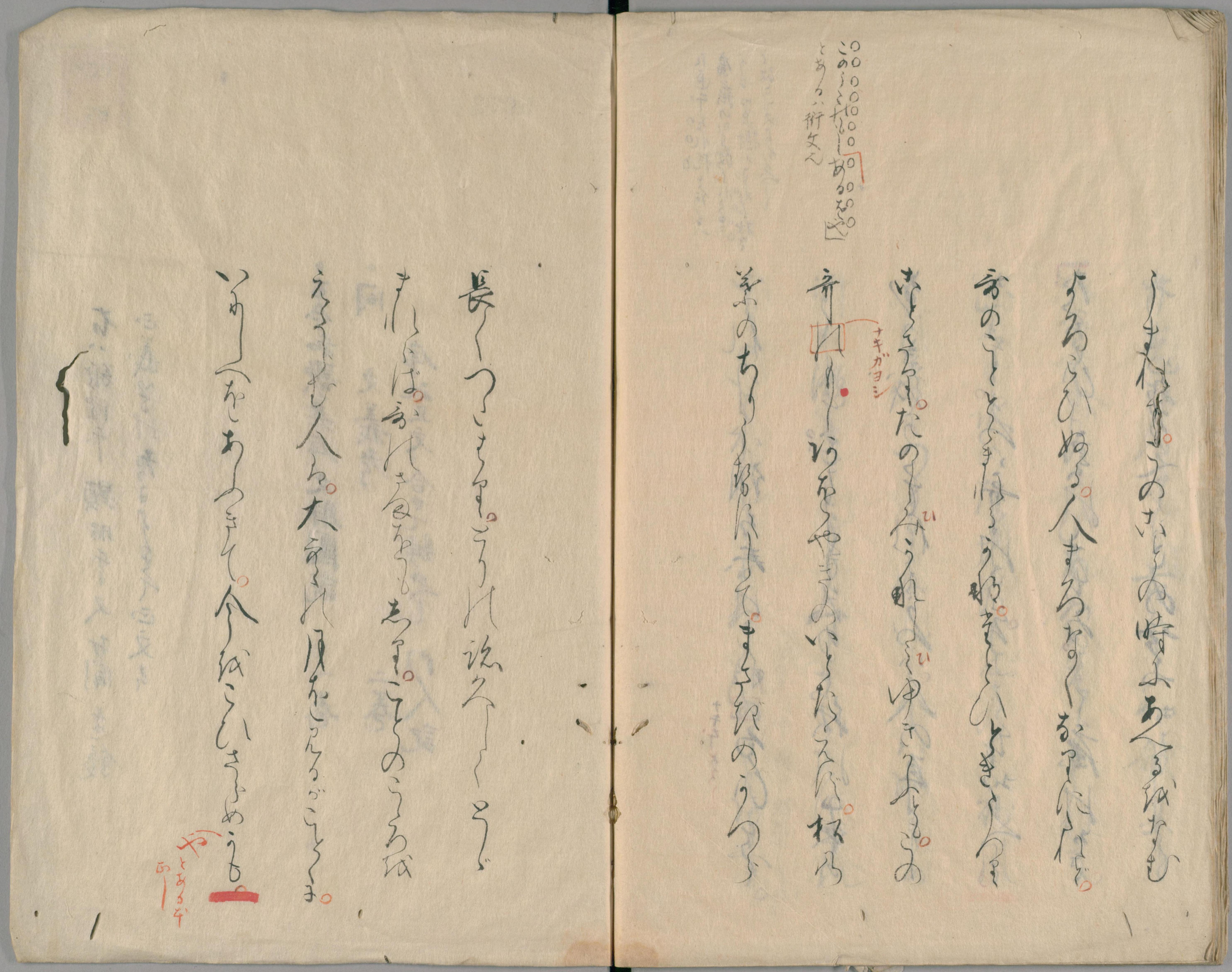
在原業平朝臣

ちはやぶる神の御代にも聞かざりし
竜田の川の水くくるかは

ナキ[illegible]

[illegible]

[illegible]



○○○

859
78

5673

右八雅俊卒 顕昭卒又ハ開基鏡
正義等ハ考ヘ合セテ正文ヲ

○古今和歌集序文脉圖說 一卷
○同 文義考 二卷
序註正文ヲ合セテ辨ジシ門人記

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集序正文』　請求記号 859-78
ガラス使用

芳宜舎藏

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集序正文』　請求記号 859-78

ガラス使用